

第20回理学懇話会のご意見

ご意見
プレゼンテーション「指定国立大学法人与基礎理学プロジェクト研究センター」について
阪大理学部を目指す方向について、コンパクトにまとめられていた。社会変化に対して、大学のあり方、考え方が変わっていることを実感した。それでも基礎学問の筋は通してもらいたと思います。
大阪大学のステータスを上げる努力をされている様子、引き続きお願いしたい。理学部は基礎研究にフォーカスを当て、他学部と共同することで応用面を見い出していくというスタンスで良いと思います。
指定国立大学法人に指定されたとのことおめでとうございます。イノベティブな大学として日本および世界を牽引していただきたいと思います。
グローバルな国際環境の中で、日本のモノづくりの産業力を守るためにも、知的財産権の確保をよろしく願います。
ご講演「創造的人材の育成と基礎科学の重要性」について
社会に出て役立つのは、基礎理学を学んだことによって得られる物事の考え方、論理の組立てではないかと思う。
上記のプレゼンテーションでも触られていましたが、「尖った人材の育成」こそが重要で、尖った人材の中からこれからの時代を切り拓く創造的人材が輩出されるものと考えています。知識はもちろん大切ですが、それ以上に好奇心やチャレンジ精神を覚醒させる本来の理学研究に期待しています。
理学部の研究は、厳しい指導はあるものの、基本的に自由に研究しなさいとのスタンスでした。自分でテーマを決めたり、研究方針を決めなくてはいけなく、楽に見えて却って厳しい研究環境にあると思います。それが将来研究者として自立する上で役立っていると思います。
課題に主体的にとりくむとともに『周囲を巻き込む力』が重要である。会社で成果をあげている人は、この力に優れている。若い時からリーダーとしてのポジションを与えてみるのも良いかも知れません。
大学では研究の楽しさを教えてあげてほしい。そのためには徹底的に自分自身で考え抜くこと。自身の研究に想い入れが持てれば、どんどん実験も進むはずだと思います。
プレゼンテーション「理学研究科の現状報告」について
研究力の源泉である教員のマネジメントを深掘りしてほしい。
大学院入学者の確保を今後、どのようにすすめるか。外国からの留学生、社会人の入学を増やすことか。
理学研究科の活動が昔と比べて、かなり外向きに多様化していることが良く分かった。いろいろと時間が足りなくて大変だと思いますが、外部へのアピールを大事にして欲しい。
社会への発信は重要。基礎科学は社会に夢を与えることで社会の理解が得られると思う。
外部への発信を積極的にやっておられるのは良いことと思います。ぜひ活発にお願いしたい。研究力強化にも力を入れておられる。海外だけではなく、他大学の優秀な学生も積極的に大学院に採用してもらいたい。女性サミットの話は、大変参考になった。
アジアの学生だけではなく、欧米、その他にも広げて活動できないでしょうか？
プレゼンテーション「最近の研究トピックス」について
私の時代は、加速器が医学・産業界に広がりありふれた存在になりました。今や、ミュオンが素粒子物理の対象から分析探索ツールとなり、広い分野へ広がっていく可能性を感じました。期待しています。
非常に興味深い研究結果であった。また絵本の執筆もされておられ、今後も続編を期待したい。
すばらしい発見で感心した。このような研究成果が続けば良いと思う。このような研究成果が続くような工夫が重要だと思う。
一般論ですが、普通の方が分かりたいことを分かるようにリリースすることが大切です。
理学懇話会全体に関するご意見・ご感想
外部から、多くの意見が出て大変良かった。学生達の聞くべき内容も多かったのではないかな。
理学部のことを色々とうかがい、それについて考えることで、自分の職場のことを再考するよい機会です。
学外委員に女性や若い人が必要。

各トピックスについて活発な意見が交され、参考になった。

産業界から理学教育・理学研究に期待すること

すぐに使える知識でなく、変化する世の中に対応できる基礎能力(知識・体力)こそが、いつまでも使えるその人の財産だと思います。理学教育・理学研究の目的は、時代が変わっても変わらないと思います。

先生方の信念に基づいて独自の理学教育・研究をしていただきたいと思います。中長期的にみれば、これこそが指定国立大学法人としての競争優位の源泉になるのではないのでしょうか。

自分で研究テーマを見つけたり、自分で研究方針を決められるような自主性のある研究者を育てて欲しい。

学生達には自ら課題を解決する力を養ってもらえればと思います。自ら解決というのは周囲をまきこんで(コミュニケーションして)というのを含めての解決力に期待しています。

「目の前に起こった事象を一般化するチカラ」を学生が養えるよう、そのような学び舎になることを期待しております。

「基礎研究をベースにした産学連携」に期待すること

期間収益を求められる産業界、企業とは異なる長い時間軸でのしっかりとした研究を続けてほしい。

「基礎研究」が知的好奇心を満たすための研究という意味だとすると、基礎研究の成果を応用に結びつけることのできる組織の設置が不可欠なものと思います。産学連携をすすめる方法は、やはり本人の意識改革ではないかと思います。

産学連携においても基礎研究を実施していただきたい。

産業界としては、連携するには出口がしっかり見えている研究であって欲しい。

「その他」

学生の中に留学生などの海外経験や留学生との交流をするようにエンカレッジして欲しい。

英語に慣れ親しんだ研究・教育をお願いします。